

令和4年度 第2回岐阜市立図書館協議会 議事概要

日 時：令和4年11月10日（木）午前10時00分～11時30分

場 所：みんなの森 ぎふメディアコスモス 第一会議室

出席者：【会場10名】アンドリュー・デュアー委員（会長）、高橋綾子委員（副会長）、
遠山健二委員、浅井万穂委員、平賀研也委員、山田智直委員、
米原木ノ実委員、井戸一元委員、田中一慶委員、千葉佐代子委員

【オンライン2名】嶋田学委員、蒲勇介委員

【欠席2名】中村正信委員、門屋伸子委員

（事務局）吉成総合プロデューサー、川合館長、野々山係長、土谷係長、
川瀬係長、中村係長

傍聴者：なし

議事概要：

■報告や事務局提案に対する委員からの意見

（1）岐阜市立図書館の障がい者支援への取り組みについて

- ・ 視覚障がい者だけでなく、他の障がいがある人も含め、広い視点で障がい者サービスについて考える必要がある。
- ・ サピエの会員であることを生かし、情報提供やサービスを整備するとよいのではないか。
- ・ 図書館の障がい者サービスを知ってもらうため、広報、周知が重要になる。また、コンテンツを揃えるだけでなく、司書や来館者とのコミュニケーションの取りやすさ等の視点でサービスを考えていく必要がある。
- ・ サービスやコンテンツを整備するだけでは支援にはならないので、その情報に触れられるようアプローチを考える必要がある。
- ・ 障がいの種類、度合い、傾向は一人一人違う。本人や家族が支援としてなにを求められているのか、ニーズの把握が求められる。そのためには、行政部署間の情報交換だけではなく、現場に行き当事者の声を聞くことが必要。また、外部の組織との連携・協力があるとよいのではないか。
- ・ 障がいを持つ人に限らず「困り感」のある人への支援という視点も必要。
- ・ 図書館を評価する方法として、他の図書館との比較をすることはひとつの方法である。また、市内全域へのサービスとして図書館の情報が行き渡っているかも評価項目になるのではないか。
- ・ 図書館の評価のためには、岐阜市立図書館が何を目指しているかのビジョンを置くことが大事である。